

県北地区の県立高校の状況

1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集 定員	全 校 学級数	在 籍 生徒数	備考
久 慈	普通(160)	160	12	418	
久慈翔北	【工業】工業(40) 総合(200) (7系列：人文、自然科学、食物、介護福祉、環境緑化、海洋科学、情報ビジネス)	240	20	428	H7 新設
種 市	普通(40)、【工業】海洋開発(40)	80	6	70	
大 野	普通(40)	40	3	45	
軽 米	普通(80)	80	6	101	
伊 保 内	普通(40)	40	3	74	
福 岡	普通(160)	160	12	282	
北 桜	【工業】機械システム(40)、電気情報システム(40) 総合(120) (4系列：人文・自然、情報ビジネス、生活・文化、介護・福祉)	200	15	312	H6 新設

2 入試の状況

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
久 慈	普通	160	141	138	▲22	160	150	149	▲11	160	137	137	▲23
久慈翔北	工業	—	—	—	—	—	—	—	—	40	15	15	▲25
	総合	—	—	—	—	—	—	—	—	200	124	124	▲76
(久慈東)	総合	200	132	130	▲70	200	123	123	▲77	—	—	—	—
(久慈工業)	電子機械	40	20	20	▲20	40	9	9	▲31	—	—	—	—
	建設環境	40	5	5	▲35	40	11	11	▲29	—	—	—	—
種 市	普通	40	21	21	▲19	40	12	10	▲30	40	11	10	▲30
	海洋開発	40	9	9	▲31	40	13	12	▲28	40	11	11	▲29
大 野	普通	40	23	23	▲17	40	11	11	▲29	40	13	13	▲27
軽 米	普通	80	38	37	▲43	80	36	35	▲45	80	31	31	▲49
伊 保 内	普通	40	23	23	▲17	40	33	33	▲ 7	40	24	23	▲17
福 岡	普通	200	129	126	▲34	160	84	84	▲76	160	83	82	▲78
北 桜	機械システム	—	—	—	—	40	16	16	▲24	40	23	23	▲17
	電気情報システム	—	—	—	—	40	18	17	▲23	40	14	14	▲26
	総合	—	—	—	—	120	64	64	▲56	120	88	87	▲33
(福岡工業)	機械システム	40	19	19	▲21	—	—	—	—	—	—	—	—
	電気情報システム	40	14	14	▲26	—	—	—	—	—	—	—	—
(一 戸)	総合	120	66	66	▲54	—	—	—	—	—	—	—	—
県北地区計		1, 040	640	631	▲409	1, 040	580	574	▲466	1, 000	574	570	▲430

3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7. 5. 1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8~R17)

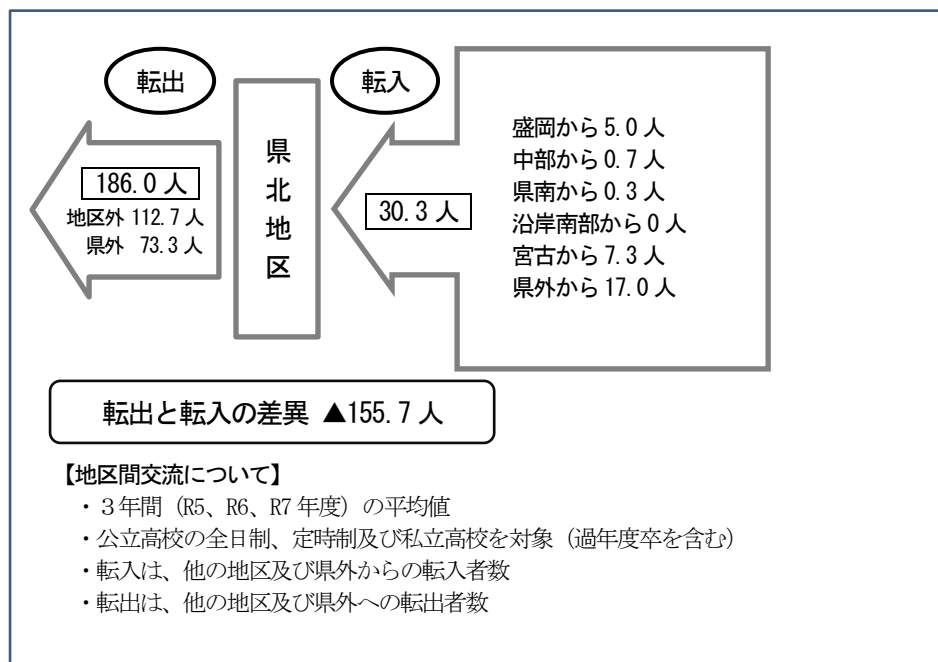
※中段：対前年比、下段：対R7年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
久慈	285	282	269	245	225	238	232	192	186	182	169	160	148	145	126
		-3	-13	-24	-20	13	-6	-40	-6	-4	-13	-9	-12	-3	-19
		-3	-16	-40	-60	-47	-53	-93	-99	-103	-116	-125	-137	-140	-159
普代	18	12	12	11	16	13	5	12	12	7	11	10	9	9	10
		-6	0	-1	5	-3	-8	7	0	-5	4	-1	-1	0	1
		-6	-6	-7	-2	-5	-13	-6	-6	-11	-7	-8	-9	-9	-8
洋野	111	95	98	96	100	101	86	81	60	58	50	48	45	36	37
		-16	3	-2	4	1	-15	-5	-21	-2	-8	-2	-3	-9	1
		-16	-13	-15	-11	-10	-25	-30	-51	-53	-61	-63	-66	-75	-74
*種市	69	61	58	68	68	74	55	55	41	41					
		-8	-3	10	0	6	-19	0	-14	0					
		-8	-11	-1	-1	5	-14	-14	-28	-28					
*大野	42	34	40	28	32	27	31	26	19	17					
		-8	6	-12	4	-5	4	-5	-7	-2					
		-8	-2	-14	-10	-15	-11	-16	-23	-25					
野田	26	33	24	32	36	31	38	27	30	39	24	24	21	19	19
		7	-9	8	4	-5	7	-11	3	9	-15	0	-3	-2	0
		7	-2	6	10	5	12	1	4	13	-2	-2	-5	-7	-7
久慈地域計	440	422	403	384	377	383	361	312	288	286	254	242	223	209	192
		-18	-19	-19	-7	6	-22	-49	-24	-2	-32	-12	-19	-14	-17
		-18	-37	-56	-63	-57	-79	-128	-152	-154	-186	-198	-217	-231	-248
二戸	188	171	176	176	174	161	153	147	144	139	121	117	110	97	86
		-17	5	0	-2	-13	-8	-6	-3	-5	-18	-4	-7	-13	-11
		-17	-12	-12	-14	-27	-35	-41	-44	-49	-67	-71	-78	-91	-102
軽米	63	61	55	53	52	47	39	40	43	42	35	28	27	25	23
		-2	-6	-2	-1	-5	-8	1	3	-1	-7	-7	-1	-2	-2
		-2	-8	-10	-11	-16	-24	-23	-20	-21	-28	-35	-36	-38	-40
九戸	37	33	40	37	34	38	34	28	24	25	19	14	15	14	11
		-4	7	-3	-3	4	-4	-6	-4	1	-6	-5	1	-1	-3
		-4	3	0	-3	1	-3	-9	-13	-12	-18	-23	-22	-23	-26
一戸	72	74	65	74	80	55	47	53	49	46	44	41	37	33	30
		2	-9	9	6	-25	-8	6	-4	-3	-2	-3	-4	-4	-3
		2	-7	2	8	-17	-25	-19	-23	-26	-28	-31	-35	-39	-42
二戸地域計	360	339	336	340	340	301	273	268	260	252	219	200	189	169	150
		-21	-3	4	0	-39	-28	-5	-8	-8	-33	-19	-11	-20	-19
		-21	-24	-20	-20	-59	-87	-92	-100	-108	-141	-160	-171	-191	-210
県北地区計	800	761	739	724	717	684	634	580	548	538	473	442	412	378	342
		-39	-22	-15	-7	-33	-50	-54	-32	-10	-65	-31	-30	-34	-36
		-39	-61	-76	-83	-116	-166	-220	-252	-262	-327	-358	-388	-422	-458

* 合併前の旧市町村名(内数)

卒業者 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1 5才・4才 4才・3才 3才・2才 2才・1才 1才・0才

4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7. 5. 1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
久慈	4	137	138	131	123	118	121	118	99	94	94	84	80	74	70	63
	参考値		139	131	123	118	121	118	99	95	95	84	80	74	71	63
久翔北	6	139	140	132	126	125	124	118	103	100	98	88	83	76	73	67
	参考値		141	133	127	126	125	119	103	100	98	89	84	76	73	67
種市	2	21	18	17	18	18	19	16	15	13	12	10	10	9	8	8
	参考値		22	22	23	22	23	20	19	17	16	14	14	13	12	12
大野	1	13	12	14	10	12	10	11	9	7	6	7	7	6	5	5
	参考値		12	14	10	12	10	11	9	7	6	7	7	6	5	5
軽米	2	30	32	29	28	27	24	20	21	22	22	18	15	14	13	12
	参考値		35	32	31	30	28	24	24	25	25	21	18	17	16	15
伊保内	1	23	21	24	23	21	22	20	18	16	16	13	11	11	10	8
	参考値		23	26	25	23	24	22	20	18	18	15	12	13	12	10
福岡	4	82	87	88	89	88	80	74	72	69	67	58	55	52	46	41
	参考値		89	90	91	90	82	76	74	71	69	60	56	53	48	42
北桜	5	124	99	96	100	102	86	79	79	76	73	65	62	58	51	45
	参考値		101	98	102	104	88	81	81	78	75	67	63	59	53	47
計	25	569	547	531	517	511	486	456	416	397	388	343	323	300	276	249
必要学級		15	14	14	13	13	13	12	11	10	10	9	9	8	7	7
参考値計			562	546	532	525	501	471	429	411	402	357	334	311	290	261
参考値必要学級数			15	14	14	14	13	12	11	11	11	9	9	8	8	7

【入学者推計について】

- ・ R 7 は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7 年度募集定員より 40 名以上の欠員又は 20 名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値

令和 7 年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総 志 願 者 数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	7	331
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲ 5	196
	盛岡第三	普通	普通	280	286	6	324
	盛岡第四	普通	普通	240	246	6	298
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241
	南昌みらい	普通	文理	160	161	1	184
		普通	芸術	40	34	▲ 6	34
		普通	外国語	40	36	▲ 4	34
		普通	スポーツ科学	80	80	0	93
	盛岡農業	農業	動物科学	40	35	▲ 5	35
		農業	植物科学	40	13	▲ 27	12
		農業	食品科学	40	42	2	51
		農業	人間科学	40	35	▲ 5	28
		農業	環境科学	40	18	▲ 22	18
	盛岡工業	工業	機械	40	37	▲ 3	39
		工業	電気	40	40	0	40
		工業	電子情報	40	40	0	44
		工業	電子機械	40	38	▲ 2	39
		工業	工業化学	40	11	▲ 29	8
		工業	土木	40	36	▲ 4	37
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	97
		商業	会計ビジネス	80	82	2	91
		商業	情報ビジネス	80	82	2	98
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲ 19	22
	葛巻	普通	普通	80	42	▲ 38	42
	平舘	普通	普通	40	16	▲ 24	16
		家庭	家政科学	40	3	▲ 37	3
	雫石	普通	普通	40	39	▲ 1	41
	14 紫波総合	総合	総合	120	86	▲ 34	88
	花巻北	普通	普通	240	217	▲ 23	223
	花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲ 5	113
		普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		普通	国際科学	40	24	▲ 16	24
	花巻農業	農業	生物科学	40	36	▲ 4	38
		農業	環境科学	40	22	▲ 18	22
		農業	食農科学	40	34	▲ 6	34
	花北青雲	工業	情報工学	40	28	▲ 12	28
		商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲ 11	29
中部	大迫	普通	普通	40	15	▲ 25	15
	遠野	普通	普通	120	108	▲ 12	113
	遠野緑峰	農業	生産技術	40	21	▲ 19	21
		商業	情報処理	40	8	▲ 32	8
	黒沢尻北	普通	普通	240	196	▲ 44	205
	北上翔南	総合	総合	160	126	▲ 34	127
	黒沢尻工業	工業	機械	40	29	▲ 11	29
		工業	電気	40	25	▲ 15	27
		工業	電子	40	25	▲ 15	25
		工業	電子機械	40	24	▲ 16	26
		工業	土木	40	13	▲ 27	13
		工業	材料技術	40	14	▲ 26	13
	11 西和賀	普通	普通	80	67	▲ 13	69
	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲ 8	242
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲ 22	19
		農業	食品科学科	40	12	▲ 28	13
県南	水沢工業	工業	機械	40	21	▲ 19	22
		工業	電気	40	20	▲ 20	20
		工業	設備システム	40	30	▲ 10	30
		工業	インテリア	40	17	▲ 23	17
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲ 12	27
		商業	会計ビジネス	40	24	▲ 16	23
		商業	情報システム	40	40	0	44
	前沢	普通	普通	40	32	▲ 8	33
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲ 60	20
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲ 39	81
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213
	一関第二	総合	総合	200	202	2	217
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲ 2	41
		工業	電子機械	40	40	0	43
		工業	土木	40	19	▲ 21	22
	花泉	普通	普通	40	40	0	41
	大東	普通	普通	80	27	▲ 53	27
		商業	情報ビジネス	40	3	▲ 37	3
	千厩	普通	普通	120	78	▲ 42	80
		農業	生産技術	40	28	▲ 12	30
13		工業	産業技術	40	34	▲ 6	34

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
沿岸南部	高田	普通	普通	120	115	▲ 5	115
		水産	海洋システム	40	11	▲ 29	11
	大船渡	普通	普通	160	135	▲ 25	140
	大船渡東	農業	農芸科学	40	12	▲ 28	12
		工業	機械電気科	40	22	▲ 18	22
		商業	情報処理	40	20	▲ 20	20
		家庭	食物文化	40	24	▲ 16	24
	住田	普通	普通	40	24	▲ 16	24
	釜石	普通・理数	普通・理数	160	145	▲ 15	147
	釜石商工	工業	機械	40	27	▲ 13	27
宮古		工業	電気電子	40	12	▲ 28	12
		商業	総合情報	40	16	▲ 24	16
	7 大槌	普通	地域探究	80	58	▲ 22	58
	山田	普通	普通	40	18	▲ 22	18
	宮古	普通	普通	200	151	▲ 49	153
	宮古北	普通	普通	40	21	▲ 19	21
	宮古商工	工業	機械システム	40	16	▲ 24	16
		工業	電気システム	40	11	▲ 29	11
		商業	総合ビジネス	40	35	▲ 5	35
		商業	流通ビジネス	40	34	▲ 6	36
宮古		商業	情報ビジネス	40	39	▲ 1	39
	宮古水産	水産	海洋生産	40	9	▲ 31	7
		家庭	食物	40	22	▲ 18	25
	6 岩泉	普通	普通	80	41	▲ 39	41
	久慈	普通	普通	160	137	▲ 23	137
	久慈翔北	工業	工業	40	15	▲ 25	15
		総合	総合	200	124	▲ 76	124
	種市	普通	普通	40	10	▲ 30	11
		工業	海洋開発	40	11	▲ 29	11
	大野	普通	普通	40	13	▲ 27	13
県北	軽米	普通	普通	80	31	▲ 49	31
	伊保内	普通	普通	40	23	▲ 17	24
	福岡	普通	普通	160	82	▲ 78	83
	北桜	工業	機械システム	40	23	▲ 17	23
		工業	電気情報システム	40	14	▲ 26	14
		総合	総合	120	87	▲ 33	88
	計 59		113学科（学系）	8,520	6,531	▲ 1,989	6,897

※参考＜市立＞

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回） 開催結果

1 実施時期

令和7年8月20日（水）～8月29日（金）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第2回会議内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての概要説明
- (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 8月28日	サンセール盛岡	18	12	16	6	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 8月20日	サンセール盛岡	16	6	6	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 8月21日	東和総合福祉センター	18	6	12	13	49
県南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和7年 8月26日	奥州市役所 江刺総合支所	17	5	15	13	50
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 8月29日	陸前高田市 コミュニティホール	22	3	8	10	43
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 8月21日	宮古地区 合同庁舎	19	0	7	11	37
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 8月20日	久慈地区 合同庁舎	17	3	5	5	30
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 8月22日	二戸地区 合同庁舎	13	1	5	10	29
計				140	36	74	75	325

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354

地域検討会議（第2回）の主な意見等

地 区	開催日	主な意見・提言等
盛 岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 8月28日(木) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初案において、1学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し、地域校を位置付けたことに感謝している。 ・ 高校の統廃合により、生徒の通学時間や交通費等が増えることが懸念されるが、教育の機会の保障という計画の趣旨に反するのではないかと。 ・ 当初案においては生徒の通学負担の増加が懸念されるという印象を持った。 ・ 学びを集約することにより、公共共通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないかと。 ・ 地域産業を担う人材の育成は、住民生活や地域振興にも大きな影響を与えるものであることから、地域課題を具体的に学ぶ学科やコースの設置、教育課程の弾力的な編成を今後も検討していく必要があると感じているところ。 ・ 当初案については、これまでの議論を通じて地域の声が反映され、小規模校への配慮も一定の納得が得られると評価する。
盛 岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 8月20日(水) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平舘高校および大船渡東高校の家庭系学科の募集停止により、県内の家庭系学科が2校のみとなる可能性があり、家庭科教育の将来に不安を感じている。 ・ 少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。 ・ 少子化だけでなく、社会の変化を見据えた高校再編が必要であり、単なる人数調整ではなく将来を見据えた視点が重要だと感じている。 ・ 今回の第3期県立高校再編計画案は、地域産業や子どもたちへの配慮が感じられ、非常に評価している。 ・ 平舘高校の家政科学科について、令和9年度からの募集停止ではなく、状況を見ながら判断する猶予を設けてほしい。 ・ 再編計画については、生徒数の減少を踏まえるとやむを得ないと感じているが、地域に学校や学科がなくなった場合、郷土を支える人材育成が困難になるのではないかと不安がある。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 8月21日(木) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。 ・ 黒沢尻工業高校については、令和9年度に既存の1学科を半導体関連の学科に再編するという事で、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。 ・ 花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。 ・ 地域校という位置付けは、現在大規模な高校もいずれはそのような話になってくると思われ、地域と一体となって学校をより良くしていくことが重要である。 ・ 地域校について、1学級校もできる限り維持するという現行計画の考え方を大切にいただいたことに感謝する。 ・ 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないかと。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 26 日 (火)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大東高校の学級減等の判断は、令和 8 年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべき。令和 9、10 年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。 近年の人口減少を鑑みると高校の再編もいたしかたないと思うので、地域住民に理解のある再編計画にしていきたい。 下宿や寮など通学支援の体制整備を検討するなど、地元の子どもたちにとって通いやすい環境を整えて頂きたいと思う。 杜陵高校奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。そのような高校が移転となると奥州市の生徒で一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。 金ヶ崎高校の水沢高校への統合について、今後、金ヶ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。 1 学年 1 学級の花泉高校を「地域校」と位置付けて学びの保障を図ることは、特例校との区別を明確にし、評価できる。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 29 日 (金)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部の人口減少や少子化の背景は東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。 大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。大船渡市として水産の街を謳っている中、事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、そのような中、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。 地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。 少人数では教育の質が保てないことが懸念される。統合や集約はビジョンを持って進め、専門性の確保や環境整備も考慮すべきである。 水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していきたい。 今回の当初案については、地域校の位置付け等、小規模校を残す方針が示されたことはうれしく感じている。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 21 日 (木)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 学級校の募集停止の基準について、入学志願者の数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、原則として翌年度から募集停止とすることとしているが、夢や希望が持てるように、もう少し柔軟かい表現に検討できないか。 宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。 水産の学びなどの集約は賛成である。南北に長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。 子どもの学びの場の確保、統廃合による子どもや保護者の負担等の課題に対応するため、寮を含めたサポートの在り方について検討いただきたい。 計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 20 日 (水)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 久慈翔北高校は本年 4 月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。 地元で学びの場があることは、保護者にとっても重要であり、教育機会が少ない地域からは人が離れてしまう懸念がある。 生徒数の減少による学級減はやむを得ないが、学校減は地域や子どもたちの将来に大きく影響するため、慎重な判断を求めたい。 子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。 水産や家庭科の学びが宮古に集約されると、これまで希望していた生徒が進路を変更する可能性が高く、地域から該当分野を志す生徒が減少することが懸念される。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 8月22日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていたきたい。 ・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。 ・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。 ・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。 ・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。 ・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。

地域検討会議（第 1 回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和 7 年 5 月 20 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1 学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかな。 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。
盛岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかな。 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和 7 年 5 月 23 日 (金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考ええる。 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかな。 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 28 日 (水)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校への進学率が 15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。 ・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。 ・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。 ・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を 6 地区の広域化で検討する必要性を認識している。 ・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 4 日 (水)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。 ・ 1 学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。 ・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。 ・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。 ・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 5 日 (木)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。 ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。 ・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。 ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。 ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。 ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 26 日 (月)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。 ・ 中学校卒業率について、5 年後には今年度と比較して 85%、10 年後には 60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。 ・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。 ・ 定数を 35 人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように 30 人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県北② (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 5月23日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学級の定員を40人から35人に出来ないか、検討していただきたい。 ・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないような施策が必要なのではないか。 ・ 各地域に高校を1校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。 ・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。 ・ 医師確保やIT人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。 ・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。 ・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が2年連続20人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）（県北①地区（久慈）） 意見交換の記録（要旨）

【久慈市、洋野町、野田村、普代村】

令和7年8月20日（水）

久慈地区合同庁舎 6階大会議室

■ 意見交換

澤里 充男 久慈市副市長

- ・ 久慈翔北高校は本年4月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。
- ・ 地域では水産業が基幹産業であり、経済・文化・コミュニティの面でも不可欠な存在。地元での人材育成が重要であり、水産系列の停止は容認できない。
- ・ 調理師養成施設についても、調理師を目指す生徒が一定数おり、資格取得後に地元で活躍する若者の存在が地域振興に寄与している。廃止による影響は大きく、存続を強く要望する。
- ・ 久慈翔北高校は多様な学びの選択が可能な学校であり、地元就職率にも好影響を与えている。総合学科の系列廃止は地元定着率の低下にもつながる恐れがある。
- ・ 宮古水産高校への集約案は、通学の困難さや保護者・生徒への負担増を招く可能性があり、進学の実選択肢を狭めることが危惧される。生徒数減少や教員確保の課題は理解しつつも、単なる効率化ではなく、地域産業と文化を支える人材育成の場として、両系列の存続を強く求める。

東山 元寿 洋野町副町長

- ・ 大野高校は地域校として位置付けられたが、町ではこれまで高校・中学校・地域と連携し、入学希望者確保に取り組んできた。今後も地域みらい留学の受け入れを継続予定であり、1学級校の募集停止基準の適用について柔軟な検討を求める。
- ・ 計画案において大野高校の募集停止が括弧書きで記載され、報道でも大きく取り上げられた。在校生や家族、進学希望者への影響を考慮し、可能であれば記載を控えてほしい。
- ・ 種市高校の海洋開発科については、潜水技術の学びの拠点としての機能維持が示されており、町としても安堵している。全国の海洋土木業界からも強い存続要望があり、今後も教育環境の整備と支援を継続していただきたい。

小野寺 勝幸 野田村長

- ・ 久慈翔北高校の水産系列の選択停止については、地域ごとの漁業の特性を踏まえ、地元での教育が不可欠と考える。通学や寮生活に伴う負担が増すことから、経済的な不公平感を軽減する支援を求める。
- ・ 工業科については、新たな募集停止基準が適用される見込みであるが、村として学校は地域活性化にとって重要な存在と位置付けており、今後、いわて留学の取組も検討することから、募集に係る経費等の支援を要望する。

太田 吉信 普代村副村長

- ・ 宮古への集約が進められた場合、通学距離の問題などから地域で水産を希望する生徒が減少することが懸念される。
- ・ 漁業者の高齢化・減少が進む中、普代村では漁業の担い手育成事業を実施しており、これまでの新規就業者は水産高校卒業者が多い。
- ・ 地域ごとに漁業の内容が異なるため、画一的な集約では対応できない実情がある。岩手県から水産産業が失われる可能性も踏まえ、将来的にも水産の学びが継続できるよう柔軟な検討を求める。

高橋 和彦 新岩手農業協同組合久慈支所 久慈支所長

- ・ 子どもの減少により再編の必要性は理解するが、地域に必要な専門高校もある。遠隔教育の活用により、現状維持や多様な選択肢の提供が可能ではないかと考える。
- ・ 地域に高校を残す手段として分校という形態も検討すべきではないか。再編後も地域に教育機会を確保するための柔軟な対応を求める。
- ・ 地域活性化の一環として、婚活イベントなどの取組に県としてもさらに力を入れてほしい。

城内 治 株式会社ジュークス 代表取締役社長

- ・ 地域校については、単なる普通科高校ではなく、地域の産業や文化的特徴を反映した学校を指定できないか検討していただきたい。生徒数が減少しても、地域における学びの機会は確保されるべきである。
- ・ 通学距離や経済的負担など、物理的な理由で子どもたちから学ぶ機会を奪うことは、インクルーシブな教育の理念に反するのではないかという懸念が残る。
- ・ 学校再編の方針が、県の教育予算ベースで進められているのか、採算性など民間的な視点とは異なる判断基準があるのかについて、説明を求めたい。

眞下 美紀子 株式会社北三陸ファクトリー 副社長

- ・ 種市高校の海洋開発科は水産の枠組みに含まれていないが、通学の利便性などを踏まえると、種市と久慈の連携による教育機会の拡充が検討されるべきではないか。
- ・ 種市から八戸へ通う生徒も一定数おり、久慈翔北高校で水産を学びたい生徒が八戸に流れる可能性がある。今後は県境を越えた広域的な連携が必要になるのではないか。
- ・ 教員数の減少に対応するため、教員の得意分野を生かした分業体制の構築が求められる。
- ・ 教員から「地域とどうつながればよいかわからない」との声があり、地域との連携を支援するコーディネーター配置に向けた予算措置を県に求めたい。

野田 亜想 有限会社ノダオートサービス 代表取締役

- ・ 最近の報道により、大野高校が廃校になると誤解する人もおり、地域で存続に向けた活動を行っていた中で士気が下がった。
- ・ 地元の祭りでは高校生が中心となって支えており、少子化による高校存続の厳しさは理解しつつも、高校生が地域を支えている現状を見てほしい。

佐藤 仁昭 野田村商工会 会長

- ・ 地元で学びの場があることは、保護者にとっても重要であり、教育機会が少ない地域からは人が離れてしまう懸念がある。
- ・ 水産分野の集約に関しても、新たな学びの連携の可能性を模索すべきである。

蒲野 隆 久慈市立久慈中学校PTA 副会長

- ・ 久慈には大学がなく、進学を機に地域を離れる生徒が多く、人口減少の一因となっている。
- ・ 水産分野の学びが他地域に集約されると、高校生の段階から久慈地域外へ流出する可能性があるという不安の声が上がっている。
- ・ 教員数の減少は理解しているが、地域に根差した学びの場は維持してほしいという強い要望がある。

佐々木 智幸 洋野町立大野中学校PTA 会長

- ・ 報道によって高校の印象が誤って伝わり、生徒や保護者が進路選択時に不安を感じるケースがある。
- ・ 地域みらい留学など、地域一体となって高校の魅力向上に取り組んでいる最中であり、数年は温かく見守ってほしい。
- ・ 再編計画が具体化する中で、保護者としては子どもの進路に対する不安が大きい。
- ・ 教員の数が減る中で、水産分野を含め、教職の魅力を高めなければ教員は増えず、教育環境の維持が困難になるのではないかな。

紀室 栄美子 普代村立普代中学校PTA 副会長

- ・ 生徒数の減少による学級減はやむを得ないが、学校減は地域や子どもたちの将来に大きく影響するため、慎重な判断を求めたい。
- ・ 寮の整備が進んでも、家族の支援が必要な生徒にとっては進路選択の制約となり得る。進学を諦めざるを得ないケースも懸念される。
- ・ 地域による教育機会の格差が生まれないよう、どこに住んでいても同じ学びが得られる環境整備をお願いしたい。

坂川 孝志 久慈市教育委員会 教育長

- ・ 久慈市ではキャリア教育に力を入れ、地元企業と連携しながら未来の地域を支える人材育成に取り組んでいる。
- ・ 調理師資格を取得し地元企業に就職する生徒もおり、こうした進路希望にどう応えていくかが課題となっている。
- ・ 水産業に関わる人材育成についても、集約による影響が懸念されている。
- ・ 子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。
- ・ 教育の集約に先立ち、遠隔授業や専門教員の兼務、企業連携など、柔軟な対応策を検討してほしい。

滝川 幸弘 洋野町教育委員会 教育長

- ・ 大野高校から種市高校への通学は困難であり、地域性を踏まえると大野高校の存続は必要と考える。
- ・ 地域おこし協力隊などの支援も受けながら、地域と連携した教育活動を継続している。
- ・ 大野高校は、いわて留学にも取り組み始めており、来年度は一定の入学者数が期待されている。

菊地 理 野田村教育委員会 教育長

- ・ 生徒数の減少に伴う学級数の削減や統合はやむを得ないと理解しており、県でも地域校として一定の配慮がなされていると感じている。
- ・ センター・スクールについては、通学が困難な県北地域では生徒の進路選択に影響が出る可能性がある。
- ・ 地域の実情や変化を踏まえながら、丁寧に対応を進めていきたい。

三船 雄三 普代村教育委員会 教育長

- ・ 高校統合にあたっては、合理性を教育の本質と混同してはならず、慎重な判断が求められる。
- ・ 生まれ育った地で学びたいという生徒がいる中で、2年連続して20人以下となった場合の募集停

止基準が妥当なのか疑問がある。

- ・ 宮古への通学に往復4時間かかる現状は、生徒や保護者にとって大きな負担であり、適正とはいえない。
- ・ 再編計画は子どもを主体に据え、進路の選択肢を狭めない形で進めていただきたい。

外館 邦博 久慈地区中学校長会（久慈市立長内中学校長）

- ・ 久慈市内の高校に加え、通学可能な葛巻高校も進路の選択肢となっているが、宮古の高校は通学が困難で希望する生徒はほぼいない。
- ・ 水産や家庭科の学びが宮古に集約されると、これまで希望していた生徒が進路を変更する可能性が高く、地域から該当分野を志す生徒が減少することが懸念される。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 1学級20人基準については、高校は社会性や協調性を育む場であり、生徒が集団の中で成長するためには一定の人数が必要である。また、進学・就職コースに分けることや多様な教育展開の観点からも、教育効果を考慮し、20人を基準として設定しているところ。
- ・ いわて留学に対する財政支援について、知事部局のふるさと振興部の市町村経営推進費の枠内でいわて留学に係る経費を選択することが可能であり、県からの補助も出る仕組みとなっている。
- ・ 遠隔授業による専門高校の維持について、座学を久慈翔北高校や高田高校で行い、実習を宮古水産高校で実施するとのことであるが、1年次は可能性があるものの、2・3年次は実習が多くなるため、現実的には困難ではないかと考えているところ。
- ・ 分校の設置について、近距離であれば分校設置は可能と考えるが、片道2時間以上かかる地域では教員の移動負担が大きく、分校には適さないと考えているところ。
- ・ 地域校の定義について、県教育委員会では学校の最低規模として1学年2学級という基準を設けており、普通高校に限って地域校として指定しているところ。
- ・ 再編計画の位置づけについては、県教育委員会では、再編計画策定の前年に長期ビジョンとして、高校教育の充実に向けた方向性を検討しており、その前提のもとで再編計画を検討しているところである。
- ・ コーディネーターの配置について、教員負担の軽減と地域との連携を図るため、市町村に地域おこし協力隊制度を活用いただき、地域に精通したコーディネーターを学校に配置することを検討している。また、県教委としては、コーディネーターの養成・研修・育成を支援する方針である。
- ・ 教員養成について、教員志望の生徒には、卒業後に一時的に県外へ出たとしても、将来的には県内で教員として活躍してもらいたいという考えのもと、教員養成に努めているところ。また、水産分野の教員免許取得は特に困難であるため、奨学金等の支援や養成システムの構築が必要であると考えている。
- ・ 下宿費補助について、北上市および宮古市において下宿費補助制度があり、宮古市では物価高騰を受けて補助額を1万5千円から2万円に増額しているところ。
- ・ 今後の高校配置について、15～20年後を見据え、専門高校は一定規模で地域に配置し、寮の整備が必要であると考えている。また、普通高校についても、通学が困難な生徒への配慮から、寮の配置が必要であると考えているところであり、宮古水産高校への学びの集約は、将来の教育体制を見据えた取組の一環としてご理解いただきたい。

高橋 和彦 新岩手農業協同組合久慈支所 久慈支所長

- ・ 水産のカリキュラムにおいて、2年生で実習が増えるとの説明があったが、地域の企業や住民に協力を依頼し、現場での実習を行うことは可能ではないか。
- ・ 普及センターの「匠」による出前事業のような形で、単位取得につながる方法も検討できるので

はないか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 教育課程の詳細については確認する必要があるが、基本的に高校の単位認定には教員資格が必要である。久慈翔北高校では非常勤講師による授業が特例的に認められている例もあるが、企業による実習を単位として認定することは、高校では制度上困難であり、現時点では難しいと考えている。

城内 治 株式会社ジュークス 代表取締役社長

- ・ 久慈市の水産系教育について、宮古水産高校への集約方針が示されているが、種市高校の海洋開発科との連携・集約は検討されなかったのか。種市高校には久慈市からの通学者も多く、内容も比較的近いように感じるが、検討の余地はなかったのか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 種市高校は工業系の学科であり、水産とは専門分野が異なる。教育課程の詳細は未確認だが、水中溶接やアーク溶接など工業寄りの学習内容であり、水産業とはカリキュラムが全く異なる。そのため、種市高校海洋開発科との集約は検討していない。

澤里 充男 久慈市副市長

- ・ 水産系・食物系を志す生徒が進路変更することで、地元就職や地域の担い手となる若者の流出が懸念される。三陸沿岸は広範囲であり、水産業の形態や考え方も地域ごとに異なるため、拠点を1箇所に集約せず、現状の3拠点を維持する方法も検討すべきではないか。教育の配置や方法について、生徒目線での柔軟な研究・検討を求めたい。

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）（県北②地区（二戸））
意見交換の記録（要旨）

【二戸市、一戸町、軽米町、九戸村】

令和7年8月22日（金）

二戸地区合同庁舎 1階大会議室

藤原 淳 二戸市長

- ・ 二戸北星支援学校について、県北地域における特別支援教育の拠点整備に深く感謝申し上げるとともに、来年4月の開校に向けて、引き続きよろしく願います。
- ・ 福岡高校の1学級減について、大変残念であるが、少子化が進む中、高校再編の必要性については、概ね理解するところ。
- ・ 一方、意見としては、高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていただきたい。具体的には、福岡高校は、近年、国立大学への進学や、国公立大学の合格率において、県内で上位となっており、学級減となっても、この水準を維持、或いはさらに高めていくために、例えば、県費でも教員配置を手厚くするなど、学びの質を確保していただくことを求める。
- ・ また、7月の知事要望においても要望したところであるが、最優先事項として、福岡高校校舎の全面改築をお願いしたい。築58年が経過し、教室やトイレ、暖房設備を始め、校舎全体の老朽化、設備面での不自由さが顕著になってきており、今の社会環境、或いは教育環境に合わない校舎が、志願者減少の1つの要因とも考えている。
- ・ 高校再編の中で受け入れざるをえない部分は受け入れつつも、地域の子どもたちや保護者が地元高校に進学したい、或いはさせたいと思えるよう、地域の誇りであり、県北の拠点校でもある福岡高校の教育環境の充実について、強くお願い申し上げます。

小野寺 美登 一戸町長

- ・ 北桜高校については、推計によれば令和10年度に学級減ということとなっており、町としてもいわずに留学に取り組んでいかなければいけないと考えている。
- ・ 民間の事業者が宿舎的なものを取得して、それに対応していただけるという話もある。
- ・ もし、令和10年度に、学級減なった場合には、現在、校舎制をとっているが、1つの校舎に集約するといった考えはあるのか。
- ・ 現在、奥中山の農場はもう全く活用されていない状況であり、今後、県としてどのように農場跡地を活用していくつもりなのか教えていただきたい。

山本 賢一 軽米町長

- ・ 軽米高校の学級減について、大変厳しく受けとめている。
- ・ 地元の中学生については、今年含めて半分ぐらいしか入学していない状況であり、何とか地元の中学校から、地元の高校への進学を増やしていきたいと考えている。
- ・ 学級減となれば、教員が大幅に減らされるとのことだが、現在、軽米高校では中高一貫教育も実施しているので、何とか教員の数が減らないようお願いしたい。町としても、様々な形で魅力化を図っていききたいと考えている。町立と同様の位置づけで考えており、教育振興に対し年間約1,500万円の支援を行うとともに、かなり補助もしている。
- ・ 西和賀高校のように、入学志願者の増により学級増となった例もあることから、軽米町としても、何とか2クラスに戻したいと考えている。県からの支援についても、よろしく願います。

大久保 勝彦 九戸村長

- ・ 7月の知事への市町村要望においても、1学級校の募集停止基準の20人以下について、見直しを要望したところだが、残念ながら、今回の再編計画当初案に記載があった。
- ・ 小規模校については、今年の夏の高校野球でも、大野と葛巻と伊保内の連合チームがベスト16に入るなど、小規模校の子どもたちも、短時間の練習時間の中で、お互いに切磋琢磨して、高め合っており、決して小規模校がデメリットであるとはとらえていない。
- ・ 伊保内高校については、地域創生の大きな力になっている。九戸村70周年ということで、伊保内高校の生徒を交えた座談会を行ったが、伊保内高校の生徒会長、そして今、地域みらい留学で入学した生徒の方々と意見交換を行った。地域みらい留学の生徒は、地域の住民との関係が、こんなに近い学校は、初めての経験だということで、大変この田舎に住むということも感動をしていたところ。
- ・ 伊保内高校では、入学者が20人を切ったこともあったが、それを契機に、地域みらい留学を受け入れて、周りの生徒たちを含め、すごくいい影響を与えている。第2のふるさととして、九戸村で3年間を過ごすわけだが、非常に大事な時間を、自分たちと一緒に共有していただけたということで、本当に子どもも感動していた。
- ・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。
- ・ 地域みらい留学については、今後、ますます力を入れて、高校生の留学を通して、地域活性化につなげていきたい。伊保内高校の存続は、地域の存続にも関わるものだと考えているので、地域との協議を進めながら、丁寧に検討していただきたい。

中村 敏昭 株式会社一戸ファッションセンター 代表取締役

- ・ 私の娘が高校進学の時になるが、八戸に習い事で通っている関係もあり、八戸に進学したいという考えがある。やはり習い事で盛岡や、八戸に通う生徒は、おのずと高校もそちらの方が選択肢に入っていくことになるのだと思う。
- ・ 一方で、地元にある近くの高校に行きたいという子どもや、交通機関や親の都合などにより近くの高校に通いたいという子どもたちにとっては、近くに高校があるということが素晴らしいことであるし助かるというところだと思う。
- ・ 子どもからの話を聞くと、やはり高校説明会や高校体験などに行くと、校舎の新しさ、綺麗さ、雰囲気の良いといった部分に魅力を感じている。そうした中、福岡高校の校舎を新しくした方が、今の若い人たちは生活しやすい学校の学びとしてもいいのだと思う。
- ・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。
- ・ 高校の魅力発信や特色化、インターンによる地元企業との協働など引き続き力を入れてやっていただければと思う。

高橋 啓介 高常自動車工業株式会社 代表取締役

- ・ 軽米高校の学級減について、非常に残念である。
- ・ 軽米高校については、1クラスの40人定員となるが、中高一貫教育を行っている中で、軽米中学校から40人以上の応募があった場合や他の地区から応募があった場合、軽米中学校の生徒が不合格となる可能性があるのか。
- ・ 現在、軽米高校では、2年時から進学、就職にクラス分けして指導していると思うが、1クラスになった場合でも、進学と就職に分かれた指導が可能なのか。
- ・ 大野高校について、令和9年度に募集停止になると記載されているが、統合と募集停止の違いについて確認したい。
- ・ 種市高校の海洋開発科について、入学者数がかなり少ないが、統合や募集停止という基準については、他の高校との違いがあるのか。

藤館 卓弘 九戸村商工会 会長

- ・ 今回の計画において、新たに伊保内高校が地域校として指定されたことについて感謝する。
- ・ 伊保内高校は、学力や経済的な理由により進学先を選択する生徒にとっては、最終的なセーフティネットとしての役割が大きい。
- ・ 20人を切った場合についても、地域に対し丁寧に説明していただき、将来的にも、ぜひ大事にしたい。

山本 卓也 二戸市PTA連合会 会長

- ・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。
- ・ ただし、市内の中学生の減少以上に福岡高校の志願者が減っていると感じている。ハード面の整備等により魅力アップしていかなければ、さらに福岡高校を希望する中学生が減るのではないかと。
- ・ また、学級減となることにより教員の数が減ることも魅力ダウンとなると思う。単位制の導入による定数増についても検討が必要と思われる。
- ・ 単位制の導入によるメリット、デメリットについて伺いたい。また、導入に向けてどのように進めていけばよいのかについても伺いたい。

加藤 暢之 二戸市教育委員会 教育長

- ・ 再編計画において、令和8年度に学級減となる4校のうち、2校が県北である。人口減少は全国的な問題であるとはいえ、県北地域についてはさらに深刻な状況であると改めて認識したところ。
- ・ 福岡高校については、近年、募集定員に満たない状況が続いていたため、学級減については懸念していたところ。
- ・ 福岡高校を進学だけの学校ではなく、1クラスを就職コースとすることで、学級減をしないという手もあるのではないかと。福岡高校で学び、安心して就職できる環境が整うのであれば、志願者数は増えるのではないかなと思っています。
- ・ 福岡高校では、この春、3名の現役生が医学部へ進学したところ。また、英語を学び、多文化共生という特徴を持つ国際教養大学への進学もあった。生徒たちは思い思いの進路実現を果たしており、多種多様な大学に進学している状況である。
- ・ 今後も、県北地域のセンタースクールとして、各自の希望に応じた進学に対応していくためにも、福岡高校には幅広い科目の開設は必要不可欠だと考えている。よって、福岡高校への進学型単位制導入を検討していただきたい。

上野 光久 一戸町教育委員会 教育長

- ・ 学級減については、もう避けられない状況であるということは理解している。
- ・ 県北地域については、令和12年度までに最大で5学級減となるが、その学級減に伴って教員の数が減ることとなる。
- ・ 私も学級減となった学校に勤務したことがあるが、その学校では毎年2名ずつ教員が減り、最終的には6名減となった。
- ・ 学級減が避けられないことは理解しているが、教員が少ない学校に対して、どのような配慮をしていただけるのか。
- ・ 小規模校に対する、ハード面或いはソフト面の補助等について、県としては考えがあるか伺う。

久保 智克 軽米町教育委員会 教育長

- ・ 今回の再編計画に示された軽米高校の学級減について、本日の説明では賛成できかねる。
- ・ 再編計画では、基本的な考え方として、生徒各自が希望する進路の実現や教育の質の保障といったことが示されている。軽米高校については、これまで、小規模校のよさを生かし、習熟度別の学

習など、生徒一人一人に寄り添った教育活動を展開するとともに、進学コースと就職専門コースを設定し、各自の希望進路を実現させるなど、大きな成果と実績を長年にわたって積み重ねてきたところ。

- ・ 県教育委員会では、学校の特色化、魅力化を一層推進し、生徒に選んでもらえる学校にということを述べているが、学級減となった場合、教員数の減少も心配され、軽米高校のコース別学習などのすばらしい教育活動をどのように充実させていこうとしているのか。また、生徒の希望する進路の実現や教育の質の保障といった基本理念の具体をどのように考えているのか、本日の説明からはよく理解できなかった。
- ・ 軽米高校の教育活動の充実と特色化、魅力化の一層の推進を図るために、2学級の維持も含め、その方策について、効果的な支援を強く願います。

高橋 良一 九戸村教育委員会 教育長

- ・ 県北地域、沿岸地域の経済状況は、沿線部とは異なっていると感じている。経済的な理由により、地元の高校にしか進学できない、地元で高校があったからこそ進学できたという子どもたちがいると思う。そのような状況から、格差というものを考えた上での再編ということが、平等な教育の機会の保障になるのではないかと考えている。
- ・ 地元の生徒たちに聞くと、やっぱり地元で貢献したい、将来戻ってきたいという生徒が多かった。それは、地元で大切に愛情を持って育てられて郷土愛を持ってきた生徒たちだからそう思ったというふうに考える。これから岩手を支える地域、地域産業を支える人材というのはまさにこういう郷土愛があった子どもたちが、支えてくれるのではないかと。そうするとやはり地域の関わりの中で育ててきた小規模校の存在意義は重要であると考えている。
- ・ 小規模校の、地域の活性化に果たす役割の大きさを考慮してほしい。
- ・ 計画の中に記載されている、推計による学級減、募集停止についてはものすごい影響力を持っている。公表にあたっては、慎重な配慮が必要だったのではないかと考える。
- ・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。
- ・ また、コーディネーターの配置について、財政支援も含め、県の方で力を入れて欲しい。
- ・ 青森県では、1学級校が2年連続定員の半数を切った場合の募集停止の基準をやめるとのことであり、一歩進んだ取組をしようとしていると感じる。

中野 善文 二戸地区中学校長会（二戸市立福岡中学校長）

- ・ 再編計画について、岩手の復興教育の理念が反映されており評価する。
- ・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。
- ・ 水産の学びについて、生徒数の減少という問題があるが、集約をすることが果たして最善なのか慎重に考えるべきだと考える。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 農場の活用については、知事部局も含めて検討していく。
- ・ 進学、就職のクラス分けについては、現在の1学級校の10校は、ほとんどが進学と就職に分かれて授業を行っている。これらは学校長の権限において行うことができる。学校のカリキュラムについては、基本的に学校において検討がなされ、県教育委員会で審査し決定するものである。その中で例えば、Aコースは進学コース、Bコースは就職というような形で取り扱うこととなると思う。
- ・ 募集停止と統合の違いについては、基本的には募集停止にした後、2年生3年生は卒業するまではその校舎に残る形と、完全統合ということで2年生と3年生が統合後の学校に一緒にいるという

形もある。それらは、統合にあたって、両校で検討して決定することとなる。

- ・ 種市の海洋開発科については、県立高校の潜水技術の学びの拠点として、その機能を維持することを想定しているため募集停止基準は設けていない。
- ・ 単位制のメリット、デメリットについては、教員加算の方に目が行きがちだが、生徒に向けたメリットとしては、習熟度別授業が実施できるとか、多様な進路希望が選択できるとか、個々の学習ニーズに対応した学校設定科目の開設ができることが生徒にとってのメリットとなる。
- ・ 単位制導入の手続きについては、基本的には手上げ制としている。それぞれの高校で単位制を導入したいという話があれば、県教委に相談いただくこととなる。
- ・ 福岡高校への就職コースの設置については可能である。教育課程の中に作る形でもよいし、単位制を導入することで就職クラスを作るということも可能と思われる。
- ・ 教員の少ない学校への配慮や、ソフト面、ハード面の整備という点についてだが、国において、高校改革に関わる交付金が創設されるとの情報が有り、具体的内容は不明だが、こちらを活用していくということも考えている。
- ・ 小規模校における教育の質をどのように確保するかという点については、遠隔授業などの実施要件の弾力化を国の動向を見ながら進めるとともに、国に改正するよう要望をしていきたいと考えている。
- ・ 福岡高校の建て替えについては、県教委としてもしかるべき考え方を持って、予算を担当する部局にしっかり説明した上で、ある程度理解はいただいたところである。

山本 卓也 二戸市PTA連合会 会長

- ・ 軽米高校について、1学級となってもしっかりと対応していくとのことであるが、出前説明会等でしっかり説明してほしい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 今回、出前説明会については期間を設けて実施することとしているが、軽米高校については、期間に限らず、中学校やPTAの方々の都合も踏まえて、期間内に限らず実施する予定である。

高橋 啓介 高常自動車工業株式会社 代表取締役

- ・ 軽米高校の学級減について、中高一貫校であるので、軽米中学校から軽米高校に進学するにあたっての影響等についても、説明が必要になると思う。また、教員が減となることで、教育の質にどのような影響があるのかといった点についても、保護者等に説明が必要になると思う。

上野 光久 一戸町教育委員会 教育長

- ・ 再編計画の中に、高校の充実に向けた方策として、他校の優良事例の導入を促すなど、課題解決学習等に対する生徒の意欲を向上させ、という言葉があるが、具体的にはどのような方法となるのか。
- ・ 一戸についても、盛岡を目指す生徒がだんだん増えてきている。小さな地方の学校ではこういう取組が有効であるといった事例を、核となる教員を配置することで広めていくことが有効ではないか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 8月1日に岩手大学において、小規模校及び専門高校を中心とした15校を集めて、探究学習の交流会を開催した。交流会では、それぞれの生徒が他校の事例を聞いて学びを深めたり、岩手大学を退官されたシニアエキスパートの方々に助言者で参画いただいたり、そういった形で、生徒に対する支援もしているところ。
- ・ また、今年度新たに魅力化アドバイザーを配置し、小規模校を中心に訪問して、どのような支援

が必要かなどについて、類型化体系化して、今後横展開していく予定である。

- ・ 地域連携コーディネーターについては、地域おこし協力隊を活用いただくなどして、一部、教員の負担も軽減しつつ、その地域の地域産業などについて、探究的な学びにつなげられる取組を始めたところ。

久保 智克 軽米町教育委員会 教育長

- ・ 遠隔授業についても、まだ見通しが立っておらず、これから計画するとのこと。高校の魅力化、特色化について、具体的な支援をお願いしたい。
- ・ 軽米高校が1学級になった場合について、激変緩和ということで何かしらの支援をお願いしたい。現在の高校2年生はすでに、進学コースと就職・専門学校コースに分かれて授業を進めているため、その部分を考慮いただき、2年生に限っては、同じように2つのクラスでできるように配慮願いたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 学級減は年次進行で実施するため、来年度の2年生3年生については2学級のままとなり、2学級分の教員数が配置されることとなる。

